

であう。つながる。ひろがる。



Doボラは同志社大学ボランティア支援室の略称です

同志社大学ボランティア支援室

活動報告書

2020



同志社大学 学生支援センター

ボランティア支援室

Support Office for Student Volunteer Activities



ボランティア支援室長
下楠 昌哉

本学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育・体育とともに、キリスト教に基づく徳育を重視しています。その徳育の一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援し、学生の自主性・社会性・奉仕の精神を育み、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的に、2016年4月にボランティア支援室を開設し、今年で5年目を迎えました。

本学ではボランティア支援室開設前から、学生が地域社会において異なる世代や立場、価値観等にふれる機会を提供することを目的に、さまざまな正課外プログラムを実施してきました。こうした従来からの取り組みを活かし、ボランティア支援室では「地域連携」を一つの柱に、ボランティア情報を収集して提供し、実際の活動への参加を促し、必要に応じて助言を与えています。

また、セミナーや講座の開催等も行っています。さらに、学内外のボランティア団体等との連携・協力によりネットワークを構築し、学生のボランティア活動の選択肢を広げ、地域社会と大学をボランティアの心でつなぐことを目指し、日々取り組んでいます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当初計画していた多くの事業が中止を余儀なくされましたが、そのような中でも実施できる活動の可能性を懸命に模索し、オンラインや非対面での活動を展開しました。具体的な取組事例としては、非対面で手紙やノートを介して地域の高齢者や子どもと交流するエールプロジェクトが挙げられます。この取り組みでは、孤立した環境が生まれやすいコロナ禍においても、参加者それぞれが地域とのつながりを実感することができました。

ボランティア活動の活性化を目的として活動しているボランティア支援室の学生スタッフ ARCO も、各メンバーが悩み、試行錯誤しながら活動した1年となりました。大学の周辺地域の市民団体や商店街にオンラインを活用してヒアリングし、そこで得たさまざまな情報をボランティア支援室 HP やオンラインイベントを通して積極的に発信しました。京田辺校地では、新型コロナウイルスへの感染防止対策を徹底した上で、対面活動を実施しました。河川環境を守るための伝統的手法による取り組みや、障がいを持つ方と協働して農作業を体験するプログラムでは、参加者はただ参加するだけではなく、これらの活動の背景にある地域課題についても理解できました。このようにコロナ禍の中での ARCO の学生たち自身によるプログラムの企画・運営は、メンバーの人的な成長にもつながりました。

ボランティア支援室では、毎年のように発生している自然災害に対する備えとして、災害ボランティアのノウハウを蓄積し、復興支援活動を通じた地域との関係づくりを学んでいく必要があると考えています。本学は、京都市上京区と「京都市上京区災害ボランティアセンター設置に関する協定書」を締結しています。この協定内容の実質化を図るため、学生の災害に対する意識向上を目的に、2020年度は災害ボランティアに関するオンラインセミナーを開催しました。昨年度は被災地での災害復興支援に携わることができませんでしたが、ボランティア支援室では引き続き、災害ボランティア活動や防災・減災活動に関する情報を収集・提供し、現地での支援活動に参加できる体制を整備していきます。

2016年4月の設立以来、ボランティア支援室には学外のボランティア団体から多くの情報が寄せられ、2020年度末現在でボランティア支援室に登録された団体数は258となりました。2021年度も新型コロナウイルスの影響は残りますが、ボランティア支援室は昨年度に得た経験を活かし、これまで以上に地域や市民活動団体との連携を深めつつ、本学と地域をつなぐ役割を積極的に担っていきます。そして、ボランティア支援室そのものの認知度向上にも取り組み、一人でも多くの学生がボランティア活動に携わるきっかけを提供できるよう、学生スタッフ ARCO とともにボランティア支援室の機能を充実させていきたいと考えています。

目 次

1. ボランティア支援室長 挨拶	1
2. ボランティア支援室について	
理念・目的／組織体制／活動内容	3
ボランティア支援室主催事業 2020 年度	4
コロナ禍におけるボランティア支援室内の主な動き	5
■ ボランティア支援室学生スタッフ ARCO	
学生スタッフ ARCO とは／代表挨拶／ 2020 年度活動実績	6
オンライン新歓／ボラ旅ガイド	7
ARCO 新聞／ ARCO 内研修（まちあるき）	8
ARCO 新歓オンライン説明会・相談会／マップ作成	9
ブラタナ	10
3. ボランティア支援室実施・参加事業	
■ 地域連携・活性化	
同志社つながる@カフェ	11
たなしる	12
エール交換レター&ノートプロジェクト（今出川）	13
エール交換ノートプロジェクト（京田辺）	14
フードバンク食品配付会／ ARCO 内研修（和束）	15
■ 環境	
ARCO 内研修（三休・やましる里山の会）	16
■ 子ども	
子どもたちが遊ぶ工作キットを作ろう！	17
■ 災害・防災・復興支援	
災害ボランティア入門講座	17
■ 講演会、講習、セミナーなど	
スキルアップ講座 Vol.7 With コロナでどうやって団体活動続ける?? /	
スキルアップ講座 Vol.8 With コロナ禍の団体運営の工夫	18
4. 同志社ボランティアネットワーク	
■ V - N E T	
同志社ボランティアネットワークとは／ボランティアサークル合同オンライン説明会	19
V-NET 合同新歓 ボランティア団体新歓合同オンライン説明会／	
V-NET 合同企画「災害時何食べる? With 防災講座」	20
同志社ボランティア交流会／ワクワク V-NET 交流会～新歓どうする??	21
（今出川）国際居住研究会／ STUDY FOR TWO 同志社大学支部／学生団体 CHAD	22
学生団体 LUCKY / ASUVID 今出川／同志社ヒーローショー同好会	23
同志社大学ワーキングコーラス／ Shinmachi Activate Project (SAP) / 同志社大学 FAST	24
（京田辺）スポーツボランティア Egg / Global Baton for Ishinomaki / そら	25
PAZ MUSICA / ASUVID 京田辺	26

ボランティア支援室について

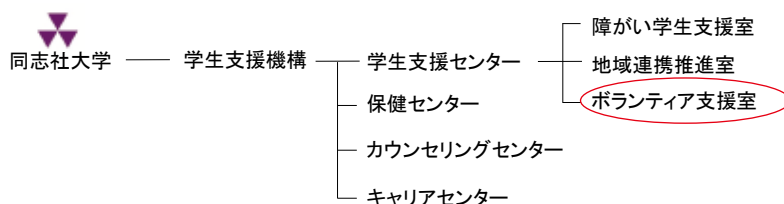
理念・目的

同志社大学は創立以来、建学の精神である「良心教育」において、知育・体育とともに、キリスト教にもとづく徳育を重視してきました。その徳育の重要な一環として、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的として、2016年4月に開設しました。

ボランティア支援室は、学生の成長への支援と同時に、その活動を通じて、大学が地域社会の一員としての責任に応えていくことを念頭に活動します。

組織体制

ボランティア支援室は、課外プログラムや学生生活上の補助を行うことで、学生生活を主体的に送れるようサポートしている学生支援センターの中に位置づけられています。また、ボランティア支援室に関する基本的事項を審議するため、ボランティア支援委員会を設置しています。ボランティア相談の対応やボランティアプログラムの実施等においては、ボランティア支援室の職員及び、両校地の学生スタッフ ARCO が企画・運営しています。



ボランティア支援委員 (2021年3月現在)

氏名	役職
下楠 昌哉	ボランティア支援室長 (委員長)
横井 和彦	キリスト教文化センター所長
関谷 直人	神学部 教授 (学識経験者)
永田 祐	社会学部 教授 (学識経験者)
井上 真琴	学生支援機構事務部長
徐 啓和	今出川校地学生支援課長
太田 博之	京田辺校地学生支援課長

ボランティア支援室 (2021年3月現在)

氏名	役職
河合 良彦	今出川校地学生支援課 係長
大澤うらら	京田辺校地学生支援課 係長
橋本 歩美	今出川校地学生支援課
高橋あゆみ	今出川校地ボランティアコーディネーター
竹村 光世	京田辺校地ボランティアコーディネーター

ボランティア支援室学生スタッフ ARCO (2021年3月現在)

今出川校地		京田辺校地	
代 表	1 名	代 表	1 名
副代表	3 名	メンバー	7 名
メンバー	24 名		

活動内容

● ボランティア情報の収集及び学生への情報提供

ボランティア情報を収集のうえ整理し、ボランティア活動を希望する学生に対して、希望する活動内容に応じた情報提供を行います。

● ボランティア活動への学生の参加促進

ボランティア活動希望学生とボランティア先のコーディネートや、学生のボランティア参加を促すことを目的とした体験的なボランティアや講演会の企画などを行います。

● ボランティア活動に参加する学生への助言と支援

学生がボランティアに参加するに際して必要な助言や支援を行います。

● ボランティアセミナー、講習会等の実施

ボランティア活動を始めたい学生や、ボランティアに関するスキルアップを目指す学生のために、様々なセミナー、講演会などを開催します。

● 学内外のボランティア団体等との連携・協力

学内外の関連団体や地域の方々とのネットワークを構築し、学生にとっての活動の場を広げるとともに、地域社会における様々なボランティア活動の、振興の一助となることを目指します。

(関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会 / 大学間連携災害ボランティアネットワーク / 大学のまち京都 災害ボランティアに係るパートナーシップ)

ボランティア支援室主催事業 2020 年度

2020 年度においては、新型コロナウイルスの影響により年度当初に予定していた事業の計画を変更せざるを得ない状況となりました。誰もが答えがわからない中、学生の声や地域とのつながりを大事にしながら、奔走してきました。春学期はオンラインや非対面でのプログラムを模索、秋学期は感染状況が日々変化する中、コロナ禍での活動に対する悩みを抱えているボランティア支援室学生スタッフ ARCO（以下、ARCO）や同志社ボランティアネットワーク（以下、V-NET）への支援を中心に行ってきました。

例年に比べ、事業の実施数は減少していますが、新規の事業の立ち上げや両校地の ARCO や V-NET の奮闘に対する支援など、身近なつながりから地域やボランティア活動に関心を寄せるきっかけづくりを多数行うことができました。

開催日	タイトル・内容	参加者数	場所
2020/6～ 2021/3	エール交換レター&ノートプロジェクト	学生9人 地域11人	上京区在住の地域の方を対象に実施
2020/8～ 2021/3	エール交換ノートプロジェクト	学生8人 地域7人	京田辺市在住の地域の方を対象に実施
2020/08/28	災害ボランティア入門講座 第1回「自分の身を守るためには」	延べ 17人	Zoom
2020/09/15	災害ボランティア入門講座 第2回「災害ボランティアに参加するにあたって」		
2020/09/14	【1日体験ボランティアプログラム】 子どもたちが遊ぶ工作キットを作ろう!	3	Zoom
2020/9/30 2020/10/6 2020/10/9	ボランティアサークル合同オンライン説明会（今出川）	延べ 24人	Zoom
2020/10/08	ボランティア団体新歓合同オンライン説明会（京田辺）	26	Zoom
2020/10/24	災害時何食べる?with防災講座	12	Zoom
2020/11/07	第2回たなしる たなRio	3	京田辺市玉水橋
2020/12/15	【スキルアップ講座】Vol.7 Withコロナでどうやって団体活動続ける??	17	Zoom
2020/12/19	同志社ボランティア交流会	24	Zoom
2021/02/23	第19回同志社つながる@カフェ 今だからこそ伝えたい出町柵形商店街の魅力と力	7	Zoom
2021/02/24	ワクワクV-NET交流会 ～新歓どうする!?～	25	Zoom
2021/03/09	【スキルアップ講座】Vol.8コロナ禍の団体運営の工夫	10	Zoom
2021/3/15 2021/3/18	第3回たなしる たなふぁーむ	8	就労継続支援B型事業所 三休
2021/03/25	フードバンク食品配付会	配付人数 51 ボランティア 3	多目的ホールラウンジ（京田辺校地）

コロナ禍におけるボランティア支援室内の主な動き

前ページの通り、コロナ禍において年度当初に予定していた事業の計画を変更せざるを得ない状況となる中、ボランティア支援室では、定期的にミーティングの機会を持ち、事業の方向性や対応方針などを話し合ってきました。主催事業や ARCO の活動以外のボランティア支援室内の主な動きは以下の通りです。

春学期 窓口閉鎖期間

ARCO に対するアンケート調査の実施 (2020.5)

春学期は原則ネット配信の授業形態で行うという方針が決定されたことを受け、オンラインや非対面でのボランティア活動への関心や参加意欲などについて、両校地の ARCO へアンケート調査を実施しました。今年度の事業の方向性を検討するにあたって貴重な機会となるとともに、学生とコミュニケーションを取るきっかけともなりました。

春学期事業の方向性の確認 (2020.5)

上記の調査結果や春学期の授業形態を踏まえ、対面での事業実施の可能性を探るよりも実施の可能性が高いオンラインや非対面でのプログラムを模索することについて確認しました。また、ARCO 内でも春学期の活動を検討する上で、方向性についての確認を学生と行い、オンライン活動に舵を切ってもらうよう促しました。

ボランティア活動参加についての考え方を整理 (2020.6)

窓口閉鎖期間ではありましたが、電話やメールでの学生からの問い合わせや相談対応は継続しました。ボランティア支援室内でボランティア活動参加についての考え方を整理し、学生からの相談に対応できる体制を整えました。

秋学期の活動方針を確認 (2020.9)

春学期中に実施した主催事業のふり返りや学生団体から寄せられる声を踏まえて、秋学期はコロナ禍で活動に対する悩みを抱えている ARCO や V-NET の支援に力を入れることとしました。また、体験ボランティアプログラムの実施にはこだわらず、学外団体との関係づくりやニーズ把握などに取り組むこととしました。

秋学期 事務室開室・対面授業一部再開

窓口再開にあたっての準備 (2020.9)

事務室開室にあたり、受付窓口にはビニールカーテンやパーテーション等の設置、チラシラックや掲示板でのボランティア情報の周知など、ハード面を準備しました。

「コロナ禍におけるボランティア活動について」資料配布開始 (2020.10)

窓口再開や一部対面授業再開を受けて、課外活動においても対面活動緩和の動きがありました。これを受けて、対応する職員で伝える内容を統一する意図も込めてボランティア活動への参加の検討や、参加する際の注意事項について、また、新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底について記載した資料を作成しました。主に窓口での相談対応の際やチラシラックにて配架し周知するようにしました。

ボランティア支援室 HP における動画配信

ボランティア支援室の紹介動画や学生によるボランティア参加の体験談動画を制作し、ボランティア支援室 HP にて公開しました。動画を通して、ボランティア支援室を知ってもらうとともに、ボランティアの魅力や具体的なボランティア活動へのイメージを持ってもらうことで、学生がボランティア活動へ興味を持つきっかけにつなげたいと考えています。



ボランティア支援室 HP 「紹介 MOVIE」

<https://volunteer.doshisha.ac.jp/join/movie/>



学生スタッフ ARCO とは

「地域と共に」をスローガンに、同志社大学生のボランティア活動への参加促進を目的として、地域やボランティア情報の発信・紹介や、イベント等の企画・運営などを行っています。

代表挨拶

ARCO（今出川）代表 社会学部産業関係学科2年次生 齋藤 恭寛

「地域と共に」をスローガンに学生と地域、ボランティアとをつなげる ARCO にとっても、2020 年はコロナの影響を大きく受けた 1 年でした。これまで誰も経験したことのない状況に対して、どう向き合うかを考え、実行してきた年でした。春学期は通常の企画運営から新メンバー獲得に向けた活動にシフトし、コロナ禍でも活動を共にする新しいメンバーを集め、秋学期は地域やボランティアの魅力を伝えるオンラインイベントや、地域の方々への取材を通して学生に魅力を発信する活動を行いました。コロナ禍で多くの活動を止めざるを得ないという状況の中でも学生を巻き込む活動ができたことから、これからも学生と地域、ボランティアとをつなげる活動を続けていきたいと考えています。

ARCO（京田辺）代表 心理学研究科2年次生 木田 昌慶

ARCO（京田辺）は 2020 年度に設立 2 年目を迎え、コロナ禍でもオンラインでのミーティングを毎週行い、活動して参りました。地域に学生を連れ出すことを大切にしている我々にとっては、対面の企画を行うハードルが高かった今年度はもどかしさがありました。しかし、やましろ里山の会や三休と協力し、感染症対策を実施したうえで基幹事業を対面で実施できたことは大きな成果だったと考えています。また、オンラインでのヒアリング活動によって、京田辺の多くの団体とつながりをつくることができ、新しい生活様式に順応した、充実した活動ができたと感じております。

2021 年度は地域と学生の互助的な関係をつくるために、さらに多くの学生、地域団体等と関わり、学生に最適なボランティア先を紹介できる基盤を整えられるように活動して参ります。

＝ 学生スタッフ ARCO 2020 年度活動実績 ＝

日程	内容
2020/6/26～8/25	新メンバーオンライン募集説明会（今出川）を実施（計9回）
2020/7/5～ 2021/1/12	新メンバーオンライン募集説明会（京田辺）を実施（計8回）
2020/7/19、8/8	新メンバー交流企画（今出川）「Talk with ARCO ～ARCOとみんなのよくばり交流会～」を実施
2020/9/26	ボランティア支援室学生スタッフARCO（今出川）新メンバーオリエンテーション研修を実施
2020/10/5、9	ボランティア支援室学生スタッフARCO（京田辺）オンライン相談会を実施
2020/10/10	新入生歓迎イベント「ブラタナ」を実施
2020/10/23	ボランティア支援室学生スタッフARCO（京田辺）新メンバーオリエンテーション研修を実施
2020/10/27	令和2年度第1回上京区まちづくり円卓会議拡大会議「上京!MOW」に参加
2020/11/1	ボランティア支援室学生スタッフARCO（今出川）オンラインOBOG会を実施
2020/11/7	第2回たなしる「たなRio」を運営
2020/11/10	第5回田辺公園拡張整備事業 計画検討委員会に参加
2020/11/18	令和2年度第2回上京区まちづくり円卓会議に参加
2020/11/22	オンライン企画「ボラ旅ガイド」を実施
2020/12/12	「ブラタナ」を実施

日程	内容
2020/12/21	ARCO内研修（今出川）「まちあるき」に参加（ボランティア支援室職員が実施）
2020/12/23	ARCO内研修（京田辺）「ボランティア体験」に参加（ボランティア支援室職員が実施）
2021/1/9	ARCO内研修（京田辺）「ボランティア体験」に参加（ボランティア支援室職員が実施）
2021/2/23	第19回同志社つながる@カフェ「今だからこそ伝えたい出町樹形商店街の魅力と力」を運営
2021/2/25	ボランティア支援室学生スタッフARCO研修（両校地）「2021年度新歓プレゼンテーション会」を実施
2021/3/5	ボランティア支援室学生スタッフARCO研修（両校地）「振り返り会」を実施
2021/3/15、18	第3回たなしる「たなふぁーむ」を運営
2021/3/22	令和2年度第1回京田辺市大学連携ディスカバリーベースミーティングに参加
2021/3/23	ARCO内研修（今出川）「ボランティア体験」に参加（ボランティア支援室職員が実施）
2020/8～ 2021/3	京田辺市で活動する団体のマップ作成 ヒアリング・制作（計10団体）
2020/11～ 2021/3	ARCO新聞 取材・発行（計3回）

オンライン新歓

【学生レポート】活動報告・感想

政策学部政策学科3年次生 酒井 慧弥

今回、私は2020年度の新歓企画に携わせて頂きました。2020年度は新型コロナウイルスの蔓延もあり、対面での活動が制限された為、準備から新入生に向けた広報活動、更には団体説明会までオンライン上で未経験の活動を行いました。その為、メンバー間のやり取りやオンラインならではの想定外の事態に、準備・当日共に多々苦勞することもありました。また、オンライン新歓で新メンバーが例年通り集まるのかといった不安も感じていました。しかしながら、そのような状況下だからこそ普段以上に深くメンバーと話し合え、想定外の出来事に対して対応できたこと等、得られた経験があると思います。また、最終的に新メンバーもしっかり集めることができ、安心しました。2021年度も2020年度の経験を活かしつつ活動できればいいなと思っています。



ボラ旅ガイド

【学生レポート】活動報告・感想

法学部法律学科2年次生 中野 希望

私は「ボラ旅ガイド」の企画運営を行いました。この企画では、ボランティアのイメージアップや参加における不安払拭を目的として、ARCO視点でのボランティアの魅力や体験談を踏まえてボランティア紹介を行い、その後交流会を行いました。初めてのオンライン企画だったので考えることが様々ありましたが、話し合いを重ね、細かな工夫を凝らすことで、企画当日にはスムーズな企画運営ができ、参加学生からは、ボランティア参加における不安を解消できた、今後ボランティアに参加したいとの声をいただきました。



ARCO 新聞

【学生レポート】活動報告・感想

経済学部経済学科2年次生 重田 直人

ARCO（今出川）では初の試みとして、取材を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大により地域やボランティアへの参加が難しい学生に対し、取材を通じて得た地域やボランティアの魅力を新聞という形で発信することで、コロナ収束後、地域やボランティア参加の足掛かりにしてもらうことが活動の目的でした。

活動中は新たな活動ゆえに苦戦を強いられることが多々ありましたが、地域の方々と新たにつながることで、地域やボランティアの魅力が詰まった新聞を作成することができたので、今学期の活動には大変満足しています。今後も学生の皆さんに地域やボランティアの魅力を伝えていけるよう、精一杯活動に取り組んでいきます。



ARCO 内研修（まちあるき）



学生スタッフ ARCO の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインの活動を主軸とし活動を進めてきましたが、例年とは違うタイミングでの新メンバーの合流や活動内容、組織づくりなどにも大きく影響している状況でありました。そこで、感染対策を講じた上で、対面での活動機会をボランティア支援室が設け、メンバー同士の交流や、主な活動地域である京都市上京区への関心を寄せるきっかけをつくることを目的として、12月21日（月）に ARCO 内研修のまちあるきを実施しました。

顔合わせのオリエンテーション後、上京区役所にて上京の歴史について京都市まちづくりアドバイザーの松井朋子氏より話を伺いました。その後、京都御苑まで歩き、大学にてふり返りを行いました。参加したメンバーからは「久しぶりにみんなとこんな風に活動できてよかった」「大学の近くにこんな場所があるんだと初めて知った」といった感想があり、対面活動の機会の重要性について再確認しました。今後も感染拡大をさせないように十分に気をつけながら、コロナ禍の組織づくりや、地域への理解を深める機会を対面も交えながら設けていきたいと思います。

【学生レポート】参加者感想

政策学部政策学科1年次生 矢野 実咲

秋学期から新メンバーとして ARCO の活動に参加していましたが、コロナウイルスの影響により、オンライン上での活動が主でした。感染対策をしながら、初めて対面活動ができるということで、ARCO 研修に参加しました。研修では、上京区役所をはじめ、本田味噌や京都御苑等を中心にまちあるきを行いました。京都市まちづくりアドバイザーの方から区役所の説明や上京区の歴史についてお話を聞いたのは貴重な体験でした。また、道中に先輩方や同期と談笑して、メンバーの新しい一面を発見でき、有意義な時間を過ごせました。

ARCO 新歓オンライン説明会・相談会

【学生レポート】活動報告・感想

心理学部心理学科3年次生 小泉 風花

2020年度新歓としてオンライン説明会、相談会を行いました。オンライン説明会の企画意図として、活動内容や理念に共感して入ってもらいたいということがありました。そのため、どのようなイベントをしているのかだけでなく、私たちがどのような目的を持って活動しているのか、学生にどのようなことを伝えたいのかという部分を伝えることが大切だと感じました。聞いている人が具体的にイメージできるよう、パワーポイントや話す順序を工夫しました。相談会は、もし私が新入生だったらという想定をしたとき、学生生活において様々な悩みや疑問を抱えているだろうなという考えからできたものです。悩みや不安を解消するために、先輩が気軽に相談に乗ってくれる機会があればいいと考え、企画しました。実際、参加してくれた学生は、学生生活の悩みだけでなく ARCO の活動についても質問をしてくれたため、相談会を実施したことで ARCO の周知にもなったと感じます。



マップ作成

【学生レポート】活動報告・感想

文化情報学部文化情報学科2年次生 高向 千晴



今出川校地のボランティア支援室にある大きなマップを見て、京田辺校地にもボランティア支援室の前を通った学生の目を引くようなものが欲しいと考え、マップを作成する経緯に至りました。このマップは京田辺市で活動する地域団体の情報を記載したものです。これを作成することで、京田辺市にどのような団体があるのかが目に見える形で分かり、さらに学内に設置することで、学生の目にも触れ、京田辺市をより知ってもらえるきっかけになるのではないかと考えました。マップに記載する情報を集めるために、私たちが興味のある団体にオンラインツールを用いてヒアリングを行いました。実際に団体の方からお話を伺い、団体や京田辺に対する熱い想いを直接聞くことができ、京田辺にはたくさんの魅力があることを改めて認識することができました。コロナ禍で対面での活動が制限される中、今年度は新たに10団体とつながることができました。コロナ禍だからこそできることは何だろうと考えた結果だと思っています。今後もこのような活動を続けていくことで、新たな関係を作るとともに、これまでにつながった団体と一緒に基幹事業「たなしる」の活動を行うことで関係を深め、継続できたらと思います。また、このマップが学生と地域の関係づくりの第一歩になれば幸いです。

ブラタナ

【学生レポート】活動報告・感想

文化情報学部文化情報学科3年次生 酒井 俊樹

ブラタナは ARCO(京田辺)の新入生歓迎イベントとして実施したまちあるきイベントです。本イベントでは同時に学生に京田辺市で活躍する団体を紹介することによって、京田辺市の魅力を伝えることを目標としていました。そのため、ARCOの活動理念や活動内容について伝えるような工夫をしました。イベントはオンラインで実施したため、実際に京田辺市内を歩くことはできませんでしたが、参加者に楽しんでもらい、実際に訪れてみたいと思えるように写真や動画、クイズなどを用意しました。オンライン上でいかに楽しく伝えるかをメンバーみんなで試行錯誤していたこともあり、参加者が楽しんでくれているのがうれしく、伝えたいことが伝えられた実感がありました。

また本イベントを実施するにあたって、京田辺市の団体を訪問したり動画を作ったりしていくうちに、ARCOメンバーの中でもまだ知らない団体の魅力などを発見することができました。新入生歓迎イベントは自分たちの活動をアウトプットする場であるのに、その中でも新たな発見があることがとても面白いことだと感じました。これからも京田辺市の魅力を発見し続け、それを誰かに伝えていく活動がしたいと感じた企画イベントとなりました。



【学生レポート】参加者感想

理工学部機械システム工学科1年次生 松山 漱亮

春学期の授業は全てオンラインで実施されたため、秋学期から下宿を始めました。そのため全く土地勘のない環境での生活が始まり、自身の生活圏が形成されていく中で、その周辺の普段行かない地域のことも知ることで、京田辺への愛着心を深めたいと思い参加しました。ブラタナで、国宝を保有するお寺や系統的にトマトを栽培する農園など、普段行かない場所を紹介いただいたことは、私の目的に合う内容でとても満足しました。紹介されたスポットに実際自転車で行ってみると、ブラタナで紹介された事柄も勿論ですが、自分自身でのさらなる発見に繋がり、この企画に参加してよかったと思います。

同志社つながる@カフェ

「同志社つながる@カフェ」は、地域と学生の出会いをコンセプトに、地域で活動する様々な方々と出会い、気軽に情報交換ができる場として、上京区役所、上京区社会福祉協議会の協力のもと行っています。企画・運営は ARCO（今出川）が担い、例年であれば1年間を通して実施している企画です。今年度は新型コロナウイルスの影響により、年度当初に予定していた春学期の2回については対面での企画実施が行えないことを受けて中止としましたが、秋学期においては、オンラインでの実施内容を検討し、2月23日（火・祝）に開催いたしました。

今回のテーマは昨年度にも取り上げた「出町榊形商店街」について、新型コロナウイルスの影響がどのようにあったのか、ゲストをお招きしてお話を伺う予定でしたが、諸事情によりゲスト参加が難しくなったため、一部内容を変更して開催しました。当日は、ARCO から見た出町榊形商店街の魅力についてお伝えし、学生の声を後日商店街に届ける形で、行いました。

参加学生からは、「普段からよく通っているのでも商店街についてはある程度知っているつもりでしたが、自分では知ることができない魅力を紹介していただいて、また行きたいと思えました」「クイズなど楽しめる企画が最初に設けられていたので、雰囲気がいい感じでした。また、お店紹介など具体的な説明も多かったのでも、商店街を訪れるきっかけになりました」という声が寄せられました。



○実施日・実施テーマ（参加者数）

2月23日（火・祝）第19回「今だからこそ伝えたい出町榊形商店街の魅力と力」（7名）

【学生レポート】活動報告・感想

経済学部経済学科2年次生 中村 颯太

今回の同志社つながる@カフェは、コロナ禍となった2020年度初のオンラインでの@カフェとなり、ARCO から出町榊形商店街の魅力を発信しました。今回の@カフェでは、企画の中での学生の声を、企画後に商店街に届けることを目的とした企画を実施しました。企画の準備段階で、うまくいかないことも多くあり、企画当日に近づくにつれて、不安や緊張などさまざまな感情が交錯することもありましたが、メンバー一人一人が強い想いを持ち最後まで協力しあえたことで、企画を成功することができました。企画の準備では、実際に現地に訪れて商店街の方から直接お話を伺ったり、企画作成の過程で参加者目線での工夫を施したりしたことで、当日企画名称にもある「今だからこそわかる出町榊形商店街の魅力」を参加学生に発信、企画内での充実した交流ができました。今後も引き続きコロナ禍による影響があると思いますが、多くの学生が企画に参加し、地域に関心を持てるような同志社つながる@カフェにしていきたいと思いました。

たなしる

「たなしる」は、「京田辺のヒトモノコトを知る・知らせる」をテーマに、参加した学生が京田辺地域の魅力を知り、地域に目を向けて、それ以降も地域に出て行くきっかけとなることを目指しています。今年度より本格的な活動を始動した京田辺校地の ARCO が企画・運営を担っています。新型コロナウイルスの影響を受けながらも、直接現場に触れられる機会を提供していくことに重点を置き、感染対策を講じながら、昨年度の第1回に引き続き下記の通り2回開催いたしました。

第2回「たな Río」では、木津川で植物、昆虫、野鳥などの観察や農作業（炭焼き、田植えなど）の作業を通じて自然環境を守る活動を行っている NPO 法人やましり里山の会の協力のもと、実際に木津川で使われている竹蛇籠たけじゃかご作りのお手伝いや川の観察など、環境保護への意識を高める機会を提供しました。

第3回「たなふぁーむ」では、就労継続支援 B 型事業所三休の協力のもと、農作業を三休の利用者の方と一緒にやる機会を持つことで、実際に福祉や障がいについて自分ごとにして考えることを目標とし、実施しました。

今年度より本格活動を始める京田辺校地の ARCO において、基幹事業となる「たなしる」の企画・運営はとても重要な年でありましたが、新型コロナウイルスの影響を受けて、年間を通して2回の実施となりました。

参加学生からは「木津川で希少な文化である竹蛇籠が現在も使われているということに驚きました」「三休さんが、行っている事業を学生へ開いているというより、行っている事業をしているメンバーさんを学生へ開いているように感じ、そこから学ぶことが多かったです」といった感想がありました。



○実施日・実施テーマ（参加者数）

11月7日（土）第2回「たな Río」（3名）

3月15日（月）、18日（木）第3回「たなふぁーむ」（8名）

【学生レポート】活動報告・感想

スポーツ健康科学部スポーツ健康学科4年次生 都築 優人

今回の第2回たなしる「たな Río」は京田辺市を流れる木津川に着目し、木津川で環境保護のために設置されている竹蛇籠、中聖牛ちゅうせいぎゅうについて知ってもらうことから環境保護に対する意識を高めてもらうことを目的として企画しました。



当日はやましり里山の会の協力の下、中聖牛の設置場所の見学、竹蛇籠の製作体験、自分で撮影した写真にキャッチコピーをつけて発表し、大賞を決めるというワークを行いました。

コロナウイルスに対する感染対策を取りながら対面での実施となり、準備の段階において困難に感じることもありましたが、しかしながら当日は参加してくれた学生や運営する ARCO メンバーのテンションが上がっているところを見ることができ、あらためて ARCO（京田辺）が基幹事業「たなしる」を行う上で大事にしている学生を地域へと連れ出していき、実際に目で見て感じることの大事さというのを学ぶことができました。



【学生レポート】参加者感想

心理学部心理学科4年次生 木原 陽子

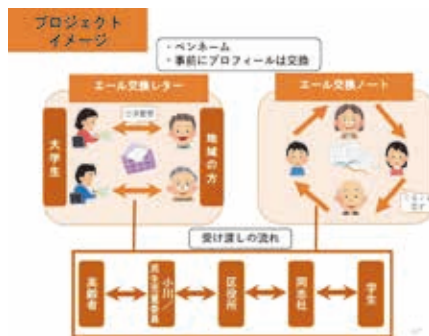
コロナの影響でできる活動が限られる中でも、何か新しいことを経験したいという思いから、今回の企画に参加させていただきました。農作業中やトークコーナーでは、三休のスタッフさん、メンバーさんたちの思いを聞くことができ、自分の将来についても考えるきっかけとなりました。京田辺に通ってはいなくても、なかなか地域で働く方々とお話できる機会は少ないので、こういった機会は貴重だと思います。

エール交換レター&ノートプロジェクト（今出川）

2020年4月緊急事態宣言が発出され、人との接触を控えるようになる中、上京区のまちづくりについて気軽に集える場「上京朝カフェ」がオンラインにて4月末に開催されました。それぞれの立場から、「このような社会状況でも、何かできることはないか」をテーマに話し合う機会となり、その中で、独居老人や一人暮らしの学生が手紙や交換ノートを通してつながり、人との交流を絶やさない取り組みができないかと発案がありました。この声を受けて、上京区及び中立学区、待賢学区、そして京都市上京区地域予防推進センター協力のもと、異世代間交流の創出を目的とし、交流を通してお互いに励まし合う（エール交換）取り組みが始まりました。

プロジェクトでは、学生と地域の高齢者が1対1の文通形式で行う形式と、学生2人、地域の高齢者2人の計4人でノートを交換する形式の2つの方法を設定し、学生9人、地域の高齢者11人が参加しました。やり取りではペンネームを使い、大学と区役所、民生児童委員を通じて相手に届ける仕組みとし、直接会うことはありませんでしたが、お互いのことを思いながら、交流を楽しみました。

参加した学生からは「楽しかったの一言に尽きます。世代の全く違う方とお話して、こんなにも楽しいとは思っていませんでした」というのが正直なところ。「お顔は見えなくてもこのようにつながることができるのだと、現代と異なるアナログなやり方もいいなと思いました」といった声が寄せられました。



上：2020年6月24日 京都新聞
下：2021年2月24日 京都新聞



【学生レポート】参加者感想

法学部法律学科2年次生 金子 未来

コロナ禍で人と全く会えず、誰かとお話したいという思いで、エール交換プロジェクトに参加しました。顔を知らない相手と文通をするということは、今までの人生でなかったのでわくわくしました。お手紙を通して、昔の京都の様子、文化や慣習など、お相手の実体験を交えながらお話していただきました。普段、あまり話せない世代の方のこれまでの人生を知れて、楽しかったです。メールと違い、文字から伝わるあたたかさを感じられる手紙の良さを再認識しました。

プロジェクト協力者感想

京都市域地域リハビリテーション支援センター 清水 真弓(コーディネーター、理学療法士)

昨年、「緊急事態宣言」という言葉で生活や行動を制限され、体も心も自由にできなくなった時、この見えない不安と恐怖にどんなふうに立ち向かえばいいのか、見当もつきませんでした。

そんな時、行動を自粛しているのは高齢者だけではなく、どうやら大学生も、授業やサークル活動、バイトもできなくなって家に閉じこもっているらしいと知りました。そんな人同士がつながれないか…と思いました。つながり方は高齢者に合わせたやり方がいい、手紙（文通）はどうだろうと、そんな思い付きが「エール交換プロジェクト」となりました。

普段からLINEやメールで短文や絵文字をやり取りしている大学生は、絵や色を使って書くのを楽しんだようです。一方で高齢者は、普段書ききれない長文に戸惑った様子でした。また、返事が来るのを楽しみにしていたのは学生で、高齢者は学生生活の邪魔にならないかを心配されていました。でもそんなホッペを聞けたのは、お互いにやり取りし合っただけでよかったからでした。

手紙だけで人はこんなにも見たこともない相手のことを思いやれるのだと、心をゆすぶられました。この文通相手ともし会う機会があるとしたら、どんな言葉を交わすのだろう。そんな楽しみがまた1つ増えました。

エール交換ノートプロジェクト（京田辺）

今出川校地で先行実施していた「エール交換レター&ノートプロジェクト」の取り組みを受けて、京田辺校地では地域の小学生と学生をつなぐ取り組みとして準備を進め、ノートを使った「エール交換ノートプロジェクト」を8月にスタートさせました。京田辺市内の子育て団体のネットワークを活用し呼びかけを行い、京田辺市内に在住している小学生7人が参加、また、本学学生は8人が参加しました。

プロジェクトでは、今出川の取り組みと同様に参加者はペンネームを使い、大学を仲介し、また京田辺市社会福祉協議会にも協力いただき、学生・小学生それぞれに届ける仕組みとしました。社協事務局がある京田辺市立社会福祉センターのレターボックスを借りて、小学生へ届けることができました。当初は9月末頃に終了予定としていましたが、どちらからも継続を求める声があり、1月末まで続けることとなり、結果として約8往復のやり取りを行うことができました。

参加した学生からは「同じ相手とこんなに長い間交換ノートが続くと思っていたいなかった。返信が来るたびに嬉しく、コロナ禍で暗い気持ちになることが多い中、日常の中に楽しみが持てた」「文字を書いて書き直して言葉を選ぶということがいい経験になりました」「子どもに対して何か自分がしてあげられることがあればと思い参加してみたが、実際やってみると子どもにやりとりしてもらうことで自分の成長につながった。思い出に残るようないい体験ができた」といった声が寄せられました。また、保護者の方からは「楽しいだけではなく、子どもが知らない人に対して自分のことをどのように伝えたら良いかを考えて書いており、学びの機会を提供してくれた」というご意見もいただきました。



2021年2月6日 洛タイ新報

【学生レポート】参加者感想

心理学部心理学科2年次生 佐藤 未波

コロナ禍であっても子どもと関われる活動を探し、エールプロジェクトに参加しました。実際に会ったことのない子どもに対して、小学生の好む内容や字体、イラストなどを調べ、工夫しました。彼女の学校での様子や夏休みの過ごし方などを知り、どんな子なのか想像を膨らませながら、やり取りをすることが楽しかったです。彼女にとって、やり取り相手が先生や友達とは異なる「大学生のお姉さん」として、彼女なりに考えて、描いてくれていることが伝わってきました。最後の回では「私とお友達になってください」というメッセージをいただきました。普段の学校生活では決して味わうことのできない、貴重な経験をさせていただきました。

プロジェクト協力者・参加者感想

きゅうたなべ倶楽部・参加小学生の母親 吉高 裕佳子

お声掛けをいただいた時、交換日記世代の私は返事を待つワクワク感が蘇り、自粛で楽しみが限られている我が子にも体験させたい！と思い参加しました。大学生の皆さんが、こども達のことを気にかけてくださっていることも本当に嬉しかったです。

「ノートの交換」と聞き、それなら簡単だと思っていましたが、実際には、対象はどうする？呼びかけは？ポストはどこにする？等々、課題は想像以上にありました。でも、ボランティア支援室、地域住民、市の市民参画課、社会福祉協議会等が協力し合い、実施することが出来たことは大きな喜びでもあり、次に繋がるきっかけにもなったと思います。このプロジェクトに参加させていただき幸せでした。本当にありがとうございました。

フードバンク食品配付会

新型コロナウイルスの影響で、アルバイト減収や仕送りが減るなど生活が苦しくなっている学生は全国的に少なくないと報道されていることを受けて、京田辺市民の一員である同志社大学生を支援したいと、フードバンク京田辺より声をかけていただきました。フードバンクに集められた食品を配付するこの取り組みは、支援を必要としている学生のニーズ把握の機会ともなりました。また、フードバンク食品配付会を通じて、学生は地域の方々から支えられることを知り、こうした活動や地域に関心を持つきっかけにつなげることをねらいに、フードバンク京田辺と京田辺市社会福祉協議会と連携して試行的に実施しました。

配付会では、50名の募集に対して、締切前に53名の応募がありました。食品を受け取った学生へのアンケートでは、「アルバイトができずに生活が苦しい」という声や「非常にありがたい」といった声が寄せられ、ニーズが高いことを確認できました。2021年度は、配付する食品の仕分け作業などに学生ボランティアを巻き込みながら、支援されるだけでなく、活動や地域に関心をもつきっかけにつなげていけるよう実施していきたいと考えています。



ARCO 内研修（和束）



新型コロナウイルスの影響を受けてボランティア活動の機会が大幅に減少し、特に新メンバーにおいてはボランティア活動を広める立場としての理解はありながらも、実感を伴わないまま活動を進めている状況でした。そこで、ボランティア体験の機会を提供し、学生スタッフの役割を実感する機会にしたいと考え、実施しました。

当日の活動では2班にわかれて、お茶の苗木を植える作業を両班とも行いました。慣れない手つきで苗木を懸命に植えながら、農作業の大変さを実感している様子でした。また、茶農家の方のお茶に対する想いや、コロナの影響を受けている現状について、和束町に移住したきっかけなど、茶農家との交流を深める時間となりました。

参加したメンバーからは「ごみ拾い以外のボランティアのイメージがなかなかつかめなかったが、やっと少しわかった気がします」といった声や、「前々から和束町の魅力について聞いていたが、やっと実感することができてよかった。この魅力を他の人に伝えていきたいです」といった声が寄せられました。コロナ禍がまだしばらく続く中で、今回の経験を基に、感染対策を講じながら対面活動の機会を来年度も検討していきたいと思っています。

【学生レポート】参加者感想

法学部法律学科1年次生 吉本 ちひろ

以前から土を触ることが好きだった私は、自然豊かな地で、農業に関われることに魅力を感じ、参加を決めました。当日は、お茶の苗植えを体験させていただきました。植える位置や深さなど、意識すべきことが多く、最初は苦戦しましたが、アドバイスをいただきながら進めていくうちに、作業に没頭し、植え終わったときには大きな達成感を味わうことができました。また、茶農家の方々が私たち学生を温かく迎えてくださったことがとても嬉しく、農家の皆さんのお茶への思いを今度は私がほかの人に伝えていきたいと思うようになりました。

ARCO 内研修（三休・やましる里山の会）

ARCO（京田辺）の既存のメンバーは全員がボランティアサークルで活動経験があり、一方で今年度新しく加わった新メンバーは、具体的なボランティア経験がなく、また新型コロナウイルスの影響を受けて、実体験を通じてボランティアの理解をする機会が持てていませんでした。

そこで、メンバー同士でボランティアやその普及に対する意識を共有し、メンバー間の関係性の構築や地域についての理解をより深めるため、ARCO 内研修を12月と1月に実施しました。これは次年度に向けた体制づくりを行うきっかけにもなりました。

12月23日（水）には、就労継続支援B型作業所三休の協力のもと、三休に通う利用者の方とも一緒になって、農作業を行いました。また、1月9日（土）には、やましる里山の会の里山農園を訪れ、12月同様に農作業を行いました。研修内容としては、それぞれの団体の設立背景や活動の意義等にも触れていただき、実際の体験だけでなく、各団体への関心を寄せる機会にもつながるようにしました。

参加したメンバーからは「実際にやってみて、ボランティアは楽しいと実感することができた」という声や、「大学の近くにこのような場所があることを知り、継続的に団体の活動に関わっていききたいと感じた」といった声が寄せられました。コロナ禍で活動制限がまだ続く中ではありますが、今回の経験を基に、感染対策を講じた上での対面活動の機会を今後も検討していきたいと思います。



【学生レポート】参加者感想

理工学部情報システムデザイン学科2年次生 松本 直樹

今までにボランティア活動をあまりしたことがなかったので、ボランティア活動がどのようなものなのか知りたいと思い参加しました。また、活動内容は農作業をするということを聞いていたので、小学校以来の農作業だと思い楽しみにしていました。

活動当日はハーブ収穫の農作業体験をしました。三休で働いている人（メンバーさん）に収穫のポイントやコツを教えてもらいながら収穫していきました。この作業の中で農作業はもちろん、三休の方と雑談をするのがとても楽しかったです。



実際に活動に参加してみて、「ボランティアをしている」というより、「楽しんで農作業をしている」という感覚でした。ですが、三休のメンバーさん（障がいのある方）が外部の人に作業を教える側に立ったり、コミュニケーションを取るということはその方にとっても良い刺激になるそうです。ただ楽しんでやっていたことが、人のためになっていたということがとても良い形であると思いました。この経験を通じて、「ボランティアは楽しい」「これからもボランティアをやっていきたい」と思いました。

【学生レポート】参加者感想

理工学部機能分子・生命化学科1年次生 西田 匡希

これからボランティアの魅力を学生に向けて発信していくために、ボランティアの経験を積んでおきたいと思い、今回の研修に参加させていただきました。参加してみると、ボランティアって災害復興支援のような皆が容易にイメージするものだけではなく、これがボランティアなのかというくらい楽しいものもあるのだなと思いました。また、このことを他の人にも知ってもらいたいと思いました。活動の方も日常生活では経験できないことを体験できて、楽しむことができました。



子どもたちが遊ぶ工作キットを作ろう！

9月14日(月)に、1日体験ボランティアプログラム「子どもたちが遊ぶ工作キットを作ろう！」を開催しました。1日体験ボランティアとは、地域のボランティア活動を少しのぞき見できる、1日体験型のプログラムです。今年度は新型コロナウイルスの影響を受けたため、活動先と協議の上、オンラインでの開催となりました。

プログラムでは、自宅にある段ボールとペットボトルのキャップを用いて、プレイパークで使用できる羽子板セットを、オンラインで繋ぎながら、各自宅で作成しました。

プログラムの実施にあたっては、ごりごりの丘プレイパークの職員の方以外にも、活動に参加している同世代の団体のメンバーとも顔を合わす機会があり、交流を深める時間にもなりました。

参加した学生からは「子どもたちが、自分が作ったもので実際に遊び、楽しんでもらえたようなので、参加して良かった。子どもからのお手紙が嬉しかったです」「このイベントを通して、子どもに関するボランティアにも興味生まれ、また参加してみたいと思いました。子どもに関することだけでなく、様々なボランティアに積極的に参加していくきっかけとなったと感じます」といった感想がありました。



【学生レポート】参加者感想

文学部英文学科1年次生 伏屋 優菜

この企画に参加した理由は、コロナ禍において、自粛が求められる中でも、子どもたちと関わろうとするこの企画に興味を持ったからです。羽子板を作っている途中、持ち手を太くしたり、割り箸で補強したりと、子どもたちの目線に立った工夫を知ることができました。後日、作った羽子板で子どもたちが楽しそうに遊んでいる映像を見て、嬉しく感じました。また、ボランティア支援室を通して、羽子板で遊んだ子どもからの手紙を届けて頂きました。子どもたちと直接関われたわけではないけれども、とても楽しく、心が暖かくなるような活動だったと思います。

災害ボランティア入門講座

8月28日(金)と9月15日(火)に災害ボランティア入門講座をオンラインにて実施しました。本講座は、毎年のように発生している自然災害に対して、日ごろからの備えを見直すことや災害ボランティアに必要な知識や心構えを学ぶことにより、災害に対して意識を高めることを目的とした企画です。講師には NPO 法人国際ボランティア学生協会の深山恭介氏をお招きし、延べ17名の学生が参加しました。



第1回は「自分の身を守るためには」をテーマに、なぜ災害が起こるのかを学び、また災害があった際の行動について考えるグループワークを行いました。第2回は「災害ボランティアに参加するにあたって」をテーマに、災害ボランティア活動の種類、参加するにあたっての準備などについて学びました。

参加者からは、「ハザードマップなどを自分で調べて、さまざまな状況に対応できるように対策を立てていこうと思う」「まずは自分が住む土地の災害の歴史や安全性について詳しく調べてみたいと感じた」「災害ボランティアに参加するときのイメージとして活用したい」といった感想が寄せられ、災害に対してじっくりと考える時間になったようです。(講座内容)

第1回「自分の身を守るためには」

- ・【講義】そもそも災害とは？
- ・【講義】災害から身を守るための具体的な備えについて
- ・【ワーク】被災したときに慌てないためのチェックリストづくり

第2回「災害ボランティアに参加するにあたって」

- ・【講義】災害ボランティアとは？
- ・【講義】災害ボランティアに参加するにあたっての準備について
- ・【ワーク】地元の復旧に貢献するために私ができることリストの作成

【学生レポート】参加者感想

理工学部数理システム学科1年次生 水谷 優太

災害ボランティアの内容や、ボランティアに参加している方がどのような思いで取り組んでいるのかに興味があり、今回の企画に参加しました。ボランティアはテレビで見ると瓦礫の撤去をしているだけだと思っていましたが、力仕事、専門的な作業以外にも、料理など様々な個性が生かされていることや、ボランティアセンターの存在などを知り、ボランティア活動は私が思っているよりも複雑であると感じました。また、被災者に対する心構えなど、普段得ることができない学びにも出会うことができて良かったです。

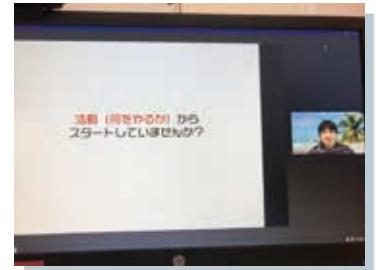
スキルアップ講座 Vol.7 With コロナでどうやって団体活動続ける??

【スキルアップ講座】とは、ボランティア活動に取り組んでいる学生や学内ボランティア団体などを対象に、活動に活かせる発展的な知識やスキルを学ぶ場を提供するボランティア支援室主催の講座です。

12月15日（火）に、「スキルアップ講座 Vol.7 With コロナでどうやって団体活動続ける??」をオンラインにて開催しました。今回は、コロナ禍で思うように団体活動ができない中、「今できること、今だからできる活動」をどのように作り出したら良いのか学びたいという声を受け、開催に至りました。

講師に岡本卓也氏（京都市東山いきいき市民活動センター長）をお迎えし、17名の学生が参加しました。講座では、団体の目的に立ち返ることが大事であるとお話をいただき、活動を考える上でのヒントを教えてくださいました。

参加した学生からは、「ちょうど昨日これからの活動についてどうする?と幹部で話し合っていたところで、とてもタイムリーな話題で、霧の中を模索しているような状態であつたので、それが晴れたように感じました」「オンラインだがグループワークもあり、参加型の講座だったので内容も頭に入りやすかった」などの感想が寄せられました。

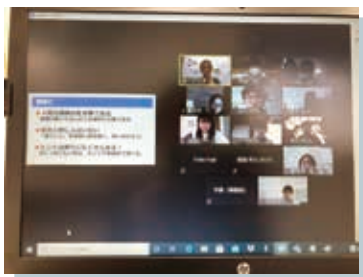


【学生レポート】参加者感想

理工学部 数理システム学科3年次生 追林 直之

新型コロナウイルスが猛威を振るいだした2020年。そして、自分がボランティア団体で会長を務めていたのも2020年でした。今まで行ってきた活動が今まで通りに開催できないまま時間が過ぎ、「今年はこのまま終わってしまうのかな」と思っていた時、このイベントに参加しました。ワークを通して、企画作りのポイントを学んだり、自分たちの団体や活動の目的を改めて考え直すことができました。コロナというピンチを、一から活動がまた作れるというチャンスに変えるきっかけとすることができたイベントでした。

スキルアップ講座 Vol.8 With コロナ禍の団体運営の工夫



3月9日（火）に、「スキルアップ講座 Vol.8 With コロナ禍の団体運営の工夫」をオンラインにて開催しました。コロナ禍で例年以上に団体活動の維持が難しく、メンバーのモチベーションに影響が受けやすくなっているという声を受け、他団体との交流もできるような内容にしました。

講師に芝原浩美氏（NPO 法人ユースビジョン事務局長）をお迎えし、10名の学生が参加しました。講座では、オンラインでもコミュニケーションがしっかり取ることができるコツを体感しながら他団体とも交流をし、最後に講座の一連のワークについて、講師より解説がありました。参加した学生からは「多くの人と意見交換ができたことがよかったです。様々な目線から運営について考えることができたので、新鮮でした」「講師の先生のお話の時間では、団体運営に必要なことを学術的な部分も含め紹介していただいたことで、自分の団体に取り入れるべき部分も多く、参加して良かったと感じました」などの感想が寄せられました。

【学生レポート】参加者感想

グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科2年次生 井上 乃晏

私が所属する団体でチームビルディングの仕方に行き詰まっていた際にこの講座を見つけ、すぐに参加を決めました。同じように他団体の運営をしている方々と「良いチームになるための要素」を話し合ったのですが、団体の規模や特性の相違に関係なく、目標設定と積極的なコミュニケーションが最も重要だという結論に至ったのが新たな発見でした。知識のインプットに加え、このようにアウトプットの時間があつたので、より内容を深く学ぶことができました。また、組織運営に焦点を当てたイベントは「あったら良いな」と思っていたものの中々開催されていないので、この講座で悩みの共有や解決の手立てを得られたことはとても貴重な経験となりました。所属する団体で実践してみようと思います。

同志社ボランティアネットワークとは

同志社ボランティアネットワーク（通称 V-NET）は、同志社大学に所属するボランティア団体（公認団体、学生支援センター登録団体）の活動のさらなる活性化を目的とした、学内ボランティア団体横断型のネットワークです。

2020 年度の V-NET の活動は、春学期は例年行っていた 4 月の V-NET 新歓企画は中止し、各団体の活動状況を V-NET 内で情報交換するなど、それぞれに活動の方向性を模索する時間となりました。秋学期の開始時期には、V-NET 新歓企画をオンラインにて行い、新メンバー募集の機会を作りました。オンラインミーティングでは、対面で行うよりもミーティング時間を長く確保できたことで、団体同士の交流や情報交換が例年以上に活発に行われました。コロナ禍を乗り越えるため、団体同士がつながって支え合う V-NET の意義を実感できた 1 年となりました。また、V-NET 京田辺では年間計画を見直し、合同企画や交流会などの各活動の担当を決め、例年と変わらない企画を行うことができました。

2021 年 3 月現在、今出川 10 団体 京田辺 6 団体が加入しています。

<加入団体／今出川>

国際居住研究会
STUDY FOR TWO
学生団体 CHAD
学生団体 LUCKY
ASUVID 今出川
同志社ヒーローショー同好会
同志社ワーキングコーラス
Shinmachi Activate Project
同志社 FAST
たんぽぽ

<加入団体／京田辺>

スポーツボランティア団体 Egg
Global Baton for Ishinomaki
そら
PAZ MUSICA
ASUVID 京田辺
同志社生涯スポーツ研究会 ～ DUAL Sport ～

ボランティアサークル合同オンライン説明会

9 月 30 日（水）、10 月 6 日（火）、9 日（金）の 3 日間にわけて、主に今出川校地を中心に活動している V-NET の 9 団体が合同新歓イベントをオンラインにて行いました。新型コロナウイルスの影響により春学期のイベントは中止し、秋学期のスタートに合わせて、準備を進めてきました。

オンライン説明会では、各団体の発表を聞くだけでなく、発表団体同士によるトークライブ、そして団体のメンバーと新入生が交流できる時間を設けました。3 日間延べ 24 名の学生が参加し、「ボランティアサークルがどのようなものか知ることができた」「自分の入りたいサークルについて詳しく知ることができた」といった感想が寄せられました。イベントをきっかけに団体加入につながったケースもあり、対面することは難しい中でも、最初の一步を踏み出す後押しをすることができました。



【学生レポート】参加団体感想

法学部法律学科 2 年次生（同志社 FAST） 松原 圭佑

私は、9 月 30 日の V-NET 新歓に参加させて頂きました。Zoom での新歓は初めてで、最初は不安でしたが、事前のリハーサルで徐々に慣れていきました。当日は、各団体より活動内容等の説明後、Zoom のブレイクアウトルームを使い、各団体それぞれ新入生と交流しました。学部や出身地、緊急事態宣言による外出自粛期間中に何をやっていたかなど、些細な会話から始まり、その後もサークルの活動内容や雰囲気上手く伝えることができたと思います。

V-NET 合同新歓 ボランティア団体新歓合同オンライン説明会

【学生レポート】活動報告・感想

心理学部心理学科2年次生 ドールジュ 泉

V-NET 所属のほとんどの団体が、新入生の募集が進まず、足止め状態であったことから、ボランティアに興味を持っている新入生や2回生向けにオンライン新歓を行いました。各団体の代表者が各団体について説明し、その後、質問形式で話を膨らませ団体についてより深く知ってもらう機会となりました。ただ、一方的に主催者側が話をすすめる形式であったので、一貫して単調に進んでしまったことと、参加者との交流や、参加者からのリアクションがわかりづかった点が反省点として挙げられます。個別相談会も設定していましたが、そちらへの参加が多くなく、改善点だと思います。



【学生レポート】参加者感想

理工学部情報システムデザイン学科2年次生 松本 直樹

何かボランティアをやってみたいと思い、ボランティア団体の情報を一気に知れると思って合同オンライン説明会に参加しました。実際に参加してみて、各ボランティア団体の活動内容や特色を知ることができて、興味がある団体を絞り込むことができました。

実際に、合同説明会が終わった後、興味を持った団体の説明会に参加して加入しました。

合同説明会は「何かボランティアしてみたいけど、どんなボランティア団体があるかわからない」という人におすすめだと思います。

V-NET 合同企画「災害時何食べる？ With 防災講座」



【学生レポート】活動報告・感想

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科3年次生 蔡 紫盈

日本は天災が多い国ですが、増え続ける留学生のほとんどは日本の防災訓練に参加したことがなく、防災意識も持っていないことを講義で知りました。一方、日本人であっても、皆が皆ちゃんと防災準備をしているというわけではないと思います。

今回の合同企画では災害・防災に関する情報を伝える防災講座を実施するだけでなく、家にあるものでできる防災食にも焦点を当て、作り方を紹介しました。「食」という学生が興味を持ちやすい身近なテーマを通じて、防災準備に繋がるきっかけを作ることを目的としています。

私の出身地香港はほぼ地震が起らない地域なので、日本に留学してくるまで地震は未知な現象でした。今回のイベントでは残念ながら、コロナの影響で実際に皆と一緒に防災食を作ったり、食べたりすることができませんでした。その代わりに、緊急時家にあるものでできる防災食の作り方について事前に動画を撮影し、配信という形式にしました。緊急時の防災食の作り方を撮影する時、「こういう料理方法もあるんだ〜」「これぐらいなら簡単に準備できそう!」と思いました。一方、京田辺市役所の安心まちづくり室や防災士の方から、通常時とコロナ禍での避難方法や日頃からできる防災準備を教えていただき、大変勉強になりました。災害は起こらないことが一番ですが、今回のイベントで得られた防災知識を持って、万が一という時は慌てずに、「備えあれば憂いなし」だと思います。

同志社ボランティア交流会

【学生レポート】活動報告・感想

同志社女子大学学芸学部音楽学科2年次生（PAZMUSICA所属） 中嶋 桃子

12月19日にZoomで開催された「同志社ボランティア交流会」には京田辺の各ボランティアサークルから約40名ほどが参加しました。例年は対面で行われる企画だったが、今年はコロナの影響によりZoomでの開催となったが、「家にあるものしりとり」などオンラインならではのゲームを取り入れ、終始楽しく和やかな雰囲気イベントが進められました。この企画の目的であった参加者にV-NETの活動について知ってもらうこと、また各サークルの繋がりを深めることなども、各団体〇×クイズを通して、参加者に楽しく知ってもらえたと思います。そして、企画進行においても各団体V-NET担当者が協力し合い、補い合いながら進めることができました。



【学生レポート】参加者感想

同志社女子大学学芸学部音楽学科1年次生（PAZMUSICA所属） 中原 郁李

同じサークルに所属している先輩に勧められて、この企画に参加することを決めました。参加する前はV-NETや他のボランティア団体について何も知らず、不安もありましたが、V-NETのことや他の団体の活動内容など様々なことを知ることができる良い機会となりました。また、説明の後には、V-NET所属団体に関する〇×クイズや、しりとりなどのミニゲームもあり、他団体の方と団結しながら行うことで、楽しく交流会に参加することが出来ました。



ワクワクV-NET 交流会～新歓どうする？～



【学生レポート】活動報告・感想

理工学部数理システム学科3年次生 追林 直之

V-NETの団体間同士の対面で交流する機会がなかったため、情報交換をする機会が少なくなってしまった一年でした。その中でも、来年に向けてより良いスタートダッシュがきけるようにと思い、このイベントを企画しました。各団体、初めてのオンライン新歓で工夫できたことや実行して効果が出た取り組みなどを共有したり、実際に新歓に参加した新入生の話を聞いたりする中で、各団体やV-NETの新歓で生

かせそうな取り組みを見つけ、アイデアを共有できました。実際にこのイベントで得たことを基にアクションに移し始めている団体もあるようなので、引き続き情報共有をしながらV-NETが盛り上がっていかばと思っています。

【学生レポート】参加者感想

理工学部エネルギー機械工学科2年次生 正木 研史郎

今回、初めてV-NETの交流会に参加させていただいたのですが、話しやすく緊張することはありませんでした。コロナ禍ということもあり、昨年の新歓でかなり苦戦しました。オンラインの活用の仕方や、独自の工夫の共有を行うことによって、他サークルの良いところを知れるいい機会になったと思います。また、私たちのサークルの良かったところ・悪かったところに関して整理することが出来ました。

国際居住研究会

活動内容

私たちは、「世界の誰しにも可能性の開かれたフェアな社会の実現」を理念に掲げ、主に、貧困地域の住居支援、フィリピンの女性と子供の支援、世界の農村リーダーを育成する学校のサポート、バングラデシュにある孤児院の支援、ビルマ難民の支援を、5つのプロジェクトに分かれて行っています。国外、国内を問わず、学生だからこそできることを考え、コロナ禍でもオンラインと対面を併用し、様々な形で幅広い活動を行っています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 塚本 まゆ

大学生の時にしか出来ないこと、得られない価値観が国際居住研究会にはたくさん詰まっています。海外に行けない状況ではありますが、国内での活動に力を入れるなど、コロナ禍でもメンバー1人1人が学生として何が出来るのかを考えて日々活動しています。



STUDY FOR TWO 同志社大学支部



活動内容

STUDY FOR TWO 同志社大学支部は、大学生から使い終えた教科書を寄付して頂き、その教科書を定価の半額以下で再販売します。そこで得た利益をラオスとバングラデシュの子どもたちへ教育支援金として寄付をするという間接的な国際ボランティアを行っています。また、全国の様々な大学に支部があるため、みんなで交流するイベントに参加したり、支援先や営業、会計について学ぶことができる事務局に入って知識をつけたりすることができます。

【メッセージ】

神学部神学科2年次生 白川 美利香

私たちはアットホームな雰囲気を大切にして、楽しく活動しています。しかし、やる時とやらない時のオンオフはハッキリしていると思います。入会費や年会費は無料！自分のペースで活動できます！気軽に来てください！



学生団体 CHAD

活動内容

私たちは国際ボランティアサークルの学生団体 CHAD です。年に2回カンボジアに渡航し、現地の小学校でボランティア活動を行っています。また、カンボジアのプノンベン大学と連携して、さまざまなプロジェクトを行なっています！コロナの関係で渡航に行けない今は国内でできるボランティアを考え、実行中です。CHADの源である子供達の笑顔を胸に日々活動しています！

【メッセージ】

文学部哲学科1年次生 佐藤 友基

私たちはオンとオフの切り替えが世界一上手な団体です。真面目にミーティングを行い、クリスマスやハロウィンなどでは楽しいイベントがあります！！貴重な大学生活を勉強や遊びだけに使ったらもったいない！私たちと一緒に活動してみませんか？



学生団体 LUCKY

活動内容

アジア最貧国と言われるネパールには、十分な教育を受けられない子供たちがたくさんいます。私達はそんな子供たちのために、教育支援を中心とした支援活動を行うため、募金活動やイベントを行っている団体です。また、年2回のスタディツアーとして支援先の村や学校を訪問し、現地の子供たちに寄り添った支援を心がけています。コロナ禍で制限される活動もありますが、現状で自分達にできる最大限を模索しながら活動を行っています。



【メッセージ】

文学部英文学科2年次生 中西 美咲

私たちの理念「Learn to Act, Act to learn ～あなたと明日を～」に含まれる“あなた”とはLUCKYの活動に関わってくださる全ての人を指します。“あなた”への感謝を忘れず、ネパールの子供たちの明日を創るために日々活動していきます。

ASUVID 今出川



活動内容

ASUVID 今出川は、国際協力・地域活性化・環境保護・子どもの教育支援・減災防災の5つの分野にわたって、幅広く多様なボランティア活動をしています。活動場所も京都市内から全国まであり、自分に合ったボランティアからはじめてみるができます。今年度もコロナ禍でしたが、できることを模索し、活動し続けてきました。実際に現場に行き社会問題に向き合ったり、仲間と何かを成し遂げたり、大学生だからこそできる経験を積むことができます。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 岸本 涼子

ASUVID 今出川は4学年300人程からなる団体です。やりたい事も人それぞれで、みんなが楽しめる団体です。ボランティアをしてみたい人も、友達が欲しい人も私たちと一緒に素敵な大学生活にしましょう！



同志社ヒーローショー同好会

活動内容

普段は京都市を中心とした関西圏の幼稚園や小学校、地域のお祭りや福祉施設などの子どもが集まる場所において、オリジナルのヒーロー「同志社戦隊タナレンジャー」の活躍するヒーローショーやボランティア活動を行っています。また学園祭では特設のステージで盛大にショーを開催しています。ショー以外にも合宿や月に1回ほどサークルでのイベントもあるので、同学年だけではなく先輩や後輩との親睦も深まります。



【メッセージ】

経済学部経済学科2年次生 藤原 優輔

私たちはヒーローショーを通じて地域の子供たちに笑顔を届けています。またショーだけでなく合宿やイベントもたくさんあります。みなさん、私たちと一緒にヒーローになりませんか？



同志社大学ワーキングコーラス

活動内容

私たち同志社ワーキングコーラスは、「青少年の健全育成」「会員の全人格的人間形成」を理念に掲げ、男女比1:1の約100名で活動を行っています。具体的な活動内容としては、野外炊飯、キャンプファイヤー、ウォークラリーなどを含むキャンプや、ハイキングといった野外活動を子供たちと一緒にを行っています。その他にも、週一回の例会を通して仲間との親睦を深めています。



【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 廣江 魁也

活動を通して、仲間の大切さ、キャンプを作ることの感動を知ることができるサークルです。子供が好きな学生、あるいはキャンプやハイキング活動に興味がある学生など、様々な思いを持った会員で日々の活動に全力で取り組んでいます。



Shinmachi Activate Project (SAP)

活動内容

私たちは新町キャンパス周辺地域の活性化を目的に活動している団体です。同志社大学の学生をはじめ、地域の方々に楽しんでいただけるイベントなどを企画・運営しています。毎年12月に開催している『新町祭』では地域の方々、学生と共に作る関西最大級のキャンドルナイトイベントとして、多くの方々にお越しいただいています。

【メッセージ】

政策学部政策学科2年次生 輪島 紬

私たちは、新町キャンパスに通う同志社大学生及び地域の方々に笑顔にする活動をしています！今はコロナ禍ということで、オンラインでもできる地域活性化を模索しています。



同志社大学 FAST

活動内容

FASTは京都市の呼び掛けによって誕生した防災サークルです。同志社大学を含めて、11の大学が加盟しています。

月1のミーティングでは、防災の話題だけではなく、勉強やバイト等の日常の事を和気藹々と話しています。学園祭では新聞紙でお皿やスリッパ、マスクを作る防災教室を開いたりしています。また、年に1度、他大学のFASTと防災イベントを一から企画・運営しています。



【メッセージ】

法学法律学科2年次生 安田 藍

災害はいつ起こるか分かりません。日頃の備えが自分や、大切な人の命を守ることに繋がります。ぜひ、私たちと一緒に防災について学びましょう！待っています。



スポーツボランティア Egg

活動内容

「スポーツで人々を笑顔に」をテーマに、関わる人たち全員が楽しめる企画を考え、活動しています。京田辺市の小学生を対象に、団体のメンバーで考えたオリジナルの遊びやゲームを行いながら、スポーツや外で遊ぶことの楽しさを伝えています。

現在は、コロナウイルスの状況を考慮しながら、感染対策をし、できる活動に力を入れています。毎週月曜日のミーティングと不定期の子どもプランを実施しています。

【メッセージ】

心理学部心理学科2年次生 佐藤 未波

大学生活で何かを達成したい人、子どもが好きな人、体を動かすことが好きな人、どんな方でも大歓迎です！Eggメンバーになって大学生活をより充実したものにしませんか？
沢山の新生とと一緒に活動できるのを楽しみにしています！



Global Baton for Ishinomaki



活動内容

GBは日本人学生と外国人留学生と一緒に活動している国際交流ボランティアサークルです。昨年度はコロナの影響でイベントがオンラインになりましたが、SNSで留学生に役立つ情報の発信などを始めました。今年も留学生と外国語で交流したり、留学生が自国の文化をシェアしたりするイベントや防災イベントなどを行う予定です。留学生メンバーがいるという強みを生かし、多文化共生ボランティア団体を目指しています。

【メッセージ】

グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科3年次生 蔡 紫盈

V-NETの中で、外国人留学生が数多く参加しているボランティアサークルです。国際交流や地域・社会貢献に興味ある方はぜひ、気軽に連絡をください。皆さんの参加を心からお待ちしております！



そら

活動内容

子どもたちの保護者と連携しながら、精華町に住む障がいをもつ子どもたちと、調理・工作・外出などの活動を企画・運営しています。また、ひとり親家庭の子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりする「学びの広場」という活動もしています。「そら」は2003年に幅広く子ども・子育て支援を行う「NPO法人そら」と連携し、大学の定める正課外活動に関わるガイドラインに沿って、学生だけでなく、困ったときにアドバイスをしてくれるスタッフ（職員）と共に活動をしています。

【メッセージ】

文学部英文学科2年次生 藤本 美奈

「そら」は子どもと学生と一緒に笑える、お互いの楽しい気持ちを重ねる素敵な場所です。皆さんも私たちと子どもと学生と一緒に過ごす楽しい時間、大学生活で忘れられない大切な思い出を作りませんか？



PAZ MUSICA

活動内容

PAZMUSICA は音楽を通して、参加者の方々と楽しい時間を共有し合うことを目的として活動しています。活動内容は幼稚園・保育園のお祭りや、地域の催し物、老人ホームでのレクリエーションなどで依頼演奏やスタッフをさせていただき、赤ちゃんからお年寄りの方までの幅広い年代の方々と交流をしています。また現在はコロナ禍なので、対面の活動だけではなく、オンラインでの交流も行っています。

【メッセージ】

同志社女子大学学芸学部音楽学科1年次生 中原 郁李

PAZMUSICA はスペイン語で「平和な音楽」という意味で、様々な世代の方々と音楽を通して交流しています。楽器だけではなく、歌や司会も募集しているので、音楽が好きな方、ボランティアに興味がある方は、ぜひ一緒に活動しましょう！



ASUVID 京田辺



活動内容

私たち ASUVID 京田辺は、同志社大学・同志社女子大学の学生、約 100 名を超える人数で活動している京田辺校地最大のボランティア団体です。地域に根差したボランティア活動として、繁殖した竹林を伐採する竹林整備活動、経済的に恵まれない子どもたちと一緒にご飯を食べる子ども食堂、子どもたちに勉強を教えるスタディーサポート、障がいを持つ人とそうない人が交流できる場をという理念の基活動するつながりプロジェクトなど活動内容は多岐にわたります。豊富で幅広い活動内容、それこそが ASUVID 京田辺の魅力です。



【メッセージ】

理工学部エネルギー機械工学科2年次生 正木 研史郎

ASUVID 京田辺は他の団体にはない、多様なボランティアに参加できるという環境が1番の強みです。メンバーがやりたいことを尊重し、ボランティアや勉強会、イベントなどを通して自分を大きく成長させることが出来ます。



同志社大学 学生支援センター
ボランティア支援室

開室時間 9:00～17:00 (平日)

HP <http://volunteer.doshisha.ac.jp/>



今出川校地

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
室町キャンパス寒梅館1F

Tel(075)251-3236 Fax(075)251-3099

Mail ji-volun@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3
京田辺キャンパス多目的ホール(ハローホール)

Tel(0774)65-6777 Fax(0774)65-7421

Mail jt-volun@mail.doshisha.ac.jp